

いつかではなく
今すぐやろう！

防災力の 第一歩

地震や豪雨による土砂災害や洪水など、いつ起こるか分からない災害。いざというときに慌てず行動するために、自宅周辺の災害リスクを把握し、災害時に必要な情報の入手方法などを知っておくことが大切です。この機会に、一緒に防災について学びませんか。

【問い合わせ先】 役場地域協働課 ☎963-1734 (直)

防災力アップ
に向けて
スタート!!

2

最新の防災情報をチェックしよう

新宮町公式LINE、福岡県防災アプリを活用しましょう。



▲町公式LINE
友だち追加はこちら



▲県防災アプリ
「まもるくん」はこちら

おすすめの情報入手先:WEB サイト編

気象庁「あなたの街の防災情報」

登録した地点の天気に関する情報を多面的に収集できる他、地震や火山など他災害の情報も確認できます。



※対策本部のように総合的に情報収集するのに
おすすめ!



1

自分の住んでいる地域の ハザード(危険)を確認しよう



▲新宮町 Web マップ

3

非常用持ち出し品の準備・点検をしよう

日ごろから「非常用持ち出し品」をリュックなどに入れて準備し、いつでも持ち出せるようにしましょう。特に「常備薬」「めがね」「携帯電話」「充電器」など特に生活に欠かせないものはすぐに持ち出せるようにしましょう。

日ごろからリュックなどに入れておこう!



Point 1 // 防災リュックサックが軽く感じる詰め方



基本は「重い物を上、軽い物は下」

災害時は交通機関が止まり、避難所が遠いなど、長い距離を歩くことも。少しでも負担を減らすには、重いものを背中側の上部に配置すること。例えばリュックサックの中は下にタオルなど、その上に水や缶詰などの順番で入れましょう。荷物の重心が肩甲骨から肩あたりになることで安定し、運びやすくなります。逆に重い物を下にすると下に引っ張られ、歩きにくくなります。



緊急地震速報がでたら「シェイクアウト」を実践しよう

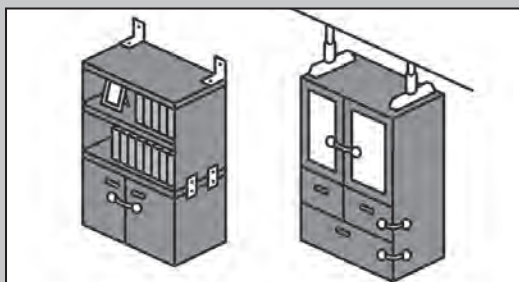
シェイクアウトとは、安全確保行動のことで「姿勢を低く」「頭を守って」「動かない」という3つの動きを指し、地震の際に命を守るための行動のことです。

テレビやスマートフォンから緊急地震速報が鳴ったら、反射的にこの行動が取れるように、日ごろから意識しておきましょう。



家具の固定、転倒・移動防止をしよう

過去の地震では、負傷者の多くが家具の転倒・落下などによってけがをしています。家具の固定や転倒防止は最も効果的な対策のひとつです。



家族の連絡手段を確認しよう

災害用伝言ダイヤル(171)は、大きな災害で電話がつながりにくいときに開設される安否確認サービスです。「171」→「1」で録音、「2」で再生します。

録音・再生とともに“自宅など家族で共通して使う電話番号”を入力します。毎月1日・15日などに体験利用ができ、災害時に慌てず使えるよう備えることができます。



避難行動(タイミング・場所)を決めよう

避難する場所は「避難所」だけではありません。複数の避難方法(分散避難)が可能です。



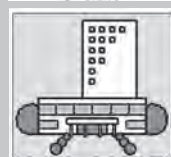
避難所への避難



在宅避難



血縁や知り合いなどを頼った縁故避難



ホテルや旅館への避難

※洪水や高潮で浸水深が3メートル以下と想定される場合、状況に応じて自宅2階などへ垂直避難(屋内安全確保)が可能とされるケースがあります。

ゴール!!

全部実践できたらかなりの防災力の向上!できるところから実践してみてください!

Point 2

地域の防災力を高めるために

地震は予兆なく発生し、近年、短時間の激しい雨が土砂災害や洪水を一気に引き起こす事例が全国で相次いでいます。新宮町でも、昨年8月には線状降水帯が2回発生し、住宅や店舗の床上浸水などの大きな被害が発生しました。こうした災害から命を守るためには、行政の力だけではなく、地域全体で備えを高めることがかせません。町では防災力の強化、安全・安心な地域づくりのために以下の取り組みを行っています。

①自主防災組織の設置促進と活性化

地域の実情に応じて、自主防災組織の設置を促すとともに、既存組織には「自助」「共助」に関わる日常的な訓練や活動の充実を支援しています。



▲緑ヶ浜区の防災訓練の様子

②防災出前講座の推進

行政区だけではなく、小規模集会にも対応可能な体制を整備し、住民が参加しやすい環境整備を進めています。

③避難行動要支援者の安全確保

避難行動要支援者名簿に基づき、地域の見守り体制や支援方法を関係者間で共有し、災害時に迅速に支援が行える体制づくりを進めています。

④防災士・防災リーダーの育成

地域の防災力を支える人材育成のため、防災士資格の取得支援や研修会を通じて、災害対応に必要な知識と技能の習得を促進しています。



▲防災士フォローアップ研修の様子